小・中学校の一貫教育の取り組み

町では、適切な時期に適切な教育（新適時適育）の考えに立ち、子どもたちの発達段階や変化に対応しながら、小・中協働の学びや育ちづくりを推進しています。

秋田県東成瀬小学校・中学校をモデルに

令和4年3月に、明安小学校と有屋小学校が金山小学校に統合され、町では、一つの小学校と一つの中学校になりました。統合による一貫教育によって、小・中の段差を少なくし、学力の向上や、いじめ・不登校を少なくしていくこと、そして、金山杉のように、自立し地域や社会へ貢献しようとする子どもたちを育成することが重要になっています。

そのため町では、令和元年度から学力向上の取り組みが全国的に有名な秋田県東成瀬小・中学校をモデルに、研修会等に参加し、どのように一貫教育を進めていくか、検討してきました。東成瀬小・中学校では、小・中の合同授業研究会を行い、小学校と中学校の教職員が授業を参観し合い、授業後の研修会で意見交換することで一貫教育が推し進められたようで、その取り組みが、小学校と中学校の段差を少なくし、同じ歩調で指導していく体制づくりに繋がっているとのことでした。また、小・中共通の取り組みとして、個に応じた指導・学級集団づくり・家庭との連携・家庭学習の充実・読書活動の推進などに力を入れてきたことで、子どもたちの学力向上が図られているという東成瀬村を参考に、11月に開催した合同授業研究会や、町の一貫教育の取り組みを紹介します。

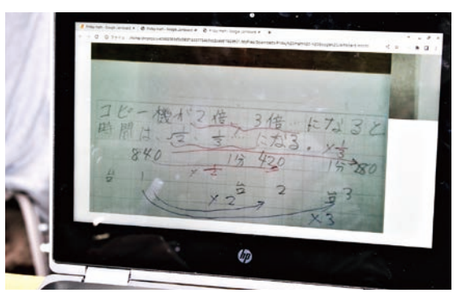
第一歩となる小・中合同授業研究会を開催

昨年11月18日に、小・中学校の合同授業研究会が金山小学校で開催されました。

授業は、6年生の算数。単元名は「比例の関係をくわしく調べよう〈比例と反比例〉」です。この単元は、一緒に変わる2つの数量の変化や対応の特徴を考える学習で、小学校算数の中で難しい内容の一つです。これは関数の考えであり、中学校ではさらに変域が負の数までになり、文字を用いた式や一次関数等に拡張されていきます。

子どもたちは小・中の教職員など約40名以上の参観者に囲まれ、緊張しながらも学習を進めました。学習課題に対する考えとして、コピー機の台数を増やす案・コピーできる枚数を増やす案の2つが出され、グループ協議と自由交流をしながら考えを深めていきました。

▲自由交流をしながら考えを深める子どもたち



▲意見交換ではタブレットも活用

授業の学習課題

1分間に25枚印刷できるコピー機で、全国の小学校に配布する広告21,000枚をコピーします。どうすれば、印刷する時間を短くできるでしょう。

授業後の研究会で課題を整理しています

合同研究会の授業参観後に、小・中学校の教職員が一緒に振り返りを行いました。授業の良さ、課題と思われること、それに対する改善策などを付箋紙に書いて貼りながら、グループごとの協議を行いました。今回の合同研究会の振り返りとして、「教科書から離れ身近な場面から問題設定をしている」「一人の考えを他の子どもが説明するなどの学び合いの姿がみられる」「意欲的に活動している」「さりげない支え合いがありクラスの雰囲気が良い」などの意見が共有されました。

合同研究会には、山形大学の森田智幸准教授にも出席していただき、全体を評価いただきました。森田先生からは、「問題が出たらすぐに取り組んでいる姿、授業開始5分以内に考える場を作っている姿が素晴らしい」と評価されました。

今後の検討課題としては「今まで以上に活動の質を見抜く目が必要」「ICTを活用するべき場面の見極めが必要」「分かっている人の説明を聞くだけでは、分かるようにはならない。他者が考えている過程を見る・感じることが大切。なぜそう考えたのかと聞くことができるといい」と、子どもたちの学力向上に向けて、教職員や町関係者が取り組んでいかなければならない事柄を指導していただきました。

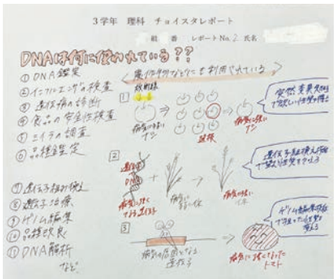
子どもたちが「分からない」と聞くことができる仲間づくりや場の設定が大切であることを、あらためて学ぶ機会となりました。

▲グループワークで課題を出し合った教職員

新たな気付きが生まれる学習を

現在、中学校では、学ぶ楽しさを感じさせ、学習計画を調整する力を高めるため、チョイス・スタディ（自由進度学習）を実践しています。左記の写真は、3年理科「DNAはトマトや稲等の農作物にも利用されている」というレポートで、新たな気付きが表現されています。

小学校と中学校の教職員が一体となって共通の授業づくりや家庭学習、児童生徒への対応を実践していくことで、「分かると楽しい」「学ぶ意味が分かった」「今、どう考えたの」などの声が高まるように取り組んでいきます。



▲チョイス・スタディの作品

これからの小・中一貫教育と学力の向上

これからの小・中学校における学力向上として大切にしていかなければならないのは、真の意味で「生きる力」を育むことです。一人一人の児童生徒が、自分の良さや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えること。そして、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められています。

町の小・中一貫教育が目指すものは、これからの変化が激しい時代を主体的に生きる力を育むことです。言い換えれば、金山町教育の基本目標である「未来を切り拓く金山人の育成」そのものです。その取り組みの第一歩として始まった今回の合同授業研究会。子どもたちのため、教職員のため、目的を明確にしながら今後も取り組みを進めていきます。